

第3学年 理科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「実ができたよ」

2 単元の目標

植物は発芽し成長して開花・結実し、種子を残す順序で育つことを理解し、実物の観察・実験と記録を扱う技能を身に付ける。「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。(B(1))

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①植物は発芽し成長して開花・結実し、種子を残す順序で育つことを理解している。 ②実物の観察・実験と記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①観察した共通点や違いを基に、「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」につながる問題を見だし、表現している。	①実ができたよの学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

「実ができたよ」は、第3学年のB(1)を手掛かりに、自然の事物・現象を調べる単元である。中心となる理解は、植物は発芽し成長して開花・結実し、種子を残す順序で育つことである。名称を覚えて答えるだけでなく、「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」に答えるために何を見て比べればよいかが授業の焦点になる。

本案では、栽培記録を振り返り現在の姿を観察するところから始め、育ち方を写真と絵で順に並べる活動を通して考えを確かめる。結論だけを先に提示すると、観察や資料が答え探しになるため、予想と理由を残してから調べる。単元末には種子から次の育ちへつながる図を作ることで、学んだ言葉と根拠が結び付いているかを確かめる。

学校の既習と実態は資料だけでは決められない。前の記録を見て、説明に必要な言葉や道具の扱いを確かめる。扱ったことのない内容を既習として書き込まず、必要な確認を導入に加える。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

.....

.....

.....

(3) 指導について

本時では「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」を中心の問いに据える。栽培してきた植物の花・実・種子を観察し、自分たちの記録写真を育った順に並べる。枯れた茎や葉と実の中の種子を一緒に見て、次の成長につながるものがどこに残ったかを図にする。

児童の最初の考えを消して正答に直させるのではなく、どの記録で考えが変わったかが分かるよう書き足させる。枯れたので何もなくなったという反応には、実の中を観察して春にまいた種子と比べる。同じ場所でも生長の速さに違いがあるので、日付だけで同じ姿になるとはまとめない

資料を読むことや書くことが負担になる児童には、比較する箇所を絞った図、読み上げ、指差しや口頭説明を用意する。説明の代筆は児童に内容を確認してから行い、文字量で理解を判断しない。早く説明できた児童には、同じ説明が当てはまらない記録がないかを探させる。

安全と扱いの留意点は次のとおり。正体の分からない実や種子を口に入れない。植物を抜く場合は栽培計画を確認、かぶれやとげのある植物は教師が扱う

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 (本時を含む)	○栽培記録を振り返り現在の姿を観察する。 ○花があった場所の変化を調べる。 ○実と種子を観察して春の種子と比べる。 ○栽培してきた植物の花・実・種子を観察し、自分たちの記録写真を育った順に並べる。枯れた茎や葉と実の中の種子を一緒に見て、次の成長につながるものがどこに残ったかを図にする。	思①（個人の説明・記録）
第2次	2	○育ち方を写真と絵で順に並べる。 ○植物の育ち方の共通点と違いを話す。 ○種子から次の育ちへつながる図を作る。	態①（記録の見直し・振り返り）

6 本時の指導（1/2（配当案））

（1）本時の目標

観察した共通点や違いを基に、「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」につながる問題を見だし、表現することができる。

（2）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「栽培記録を振り返り現在の姿を観察する」ときの疑問を取り出す。 ○「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・植物は発芽し成長して開花・結実し、種子を残す順序で育つのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・正体の分からない実や種子を口に入れない。植物を抜く場合は栽培計画を確かめ、かぶれやとげのある植物は教師が扱う
展開 （ 分）	○栽培してきた植物の花・実・種子を観察し、自分たちの記録写真を育った順に並べる。枯れた茎や葉と実の中の種子を一緒に見て、次の成長につながるものがどこに残ったかを図にする。 ○「どの観察結果から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確かめ直す。 ○比べた結果から新たな問題を見だし、何を調べたいかとその理由を表す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・育ち方を写真と絵で順に並べることで、理由を確かめたい。	・枯れたので何もなくなったという反応には、実の中を観察して春にまいた種子と比べる。同じ場所でも生長の速さに違いがあるので、日付だけで同じ姿になるとはまとめない ・結果に合わない意見も記録へ戻る材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ◎思① 観察した共通点や違いを基に、「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」につながる問題を見だし、表現している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる観察結果とともに書く。 【まとめ】植物は発芽し成長して開花・結実し、種子を残す順序で育つ。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは得られた記録の範囲に限定する。予定どおりの結果が出なければ条件と方法を見直し、実測結果を作り替えない。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ・本時の重点は「比べた結果から新たな問題を見だし、何を調べたいかとその理由を表す。」であり、知識の結論だけで思考の評価を決めない。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

（３）板書計画

上段に「実ができたよ」と本時の問い「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。育ち方を写真と絵で順に並べる際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」（@mie_ai_katsuyo）
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

